

令和4年度 国富町立木脇小学校 学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】 「目とどく、声とどく、心とどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、
「自ら学び、豊かな心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。

4段階評価 4:達成(期待以上) 3:ほぼ達成(ほぼ期待どおり) 2:不十分(やや期待を下回る) 1:改善を要する(期待を下回る)

	評価項目(指標)	具体的目標	学校の自己評価コメント (○:アンケート結果、◇:結果の考察・分析と改善策等)		自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価コメント
進んで学ぶ子を育てる	1 基礎的・基本的な内容の定着	○学習5つのかまきりを守れていると答える児童が80%を超える。 ○授業がよく分ると答えた児童が80%を超える。 ○学習時間(集中して取り組んでいる時間)が、学年の目安時間を上回った児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・授業はよくわかる 児童88.5%、保護者78.5% ・ICT機器を使って学習できる 児童90.6%、保護者82.4% ◇学習の5つのかまきりについては、主に授業中に繰り返し指導してきた。しっかりと定着が図れるように、今後も根気強く取り組む必要がある。「分かった」「できた」と自信がもてる児童がいる一方で不安に思っている児童もいる。授業改善を図り、児童のサポートの仕方を工夫したい。ICTの活用レベルは上がってきている。	2.7	3.3		○素晴らしい教育内容である。 ○参観日の児童の姿を見て、積極的に授業に取り組んでいる姿が素晴らしい。 ○ICT活用推進モデル校の指定により、活用が十分に行われ、指導の成果が出ている。 ○マスクの制限の中、自分の意見がタブレットにより伝えられるのはよかった。 ○ICTを活用した学習は、今も子供達ならではの内容だと感心させられた。 ○子供は、ICT機器が大好きだと思いが、視力体力の低下につながらないようにしっかりと体を動かすことを考えてほしい。 ○ICTの学習に時間のかかる子供もいるだろうし、職員の努力に感謝したい。 ○本を読むことはとても大切である。読み聞かせもあり、聞くことの大切さを感じる。保護者にも頑張ってもらいたい。 ○家で読書活動を促せば、保護者が上がると考える。 ○読書は、親子の評価に差があるので、感想文等で、成果を聞きたい。
	2 学習意欲の向上	○児童がICT機器(タブレット等)の使い方を理解し、学習の内容理解を深めるために自分の考えや意見を伝えることができる児童が80%を超える。 ○考えを伝え合ったり、進んで発表したりすることができたという児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・自分の考えを伝えられる・発表できる 児童59.6%、保護者59.9% ・自宅で学年の目安学習している 児童61.7%、保護者41.7% ◇自分の考えを伝えるスキルが、コロナ禍のグループ学習等の制限で落ちている部分がある。国語科をはじめ全教科でスキルを身に付け、自分の考えを伝える児童を育てることで、学習意欲の向上に努めたい。				
	3 読書活動の推進	低学年は月10冊、中学年は月6冊、高学年は月3冊以上読む児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・自分から進んで本を読む 児童61.7%、保護者33.9% ◇しばらくの期間、図書室の利用や本の貸し出しを制限していたが、10月以降は制限をせず、読書ビンゴ等の取組で、読書量も増えた。今後も読み聞かせやピリオバトルなどの取り組みをして本に親しみむきっかけ作りを行う。				
思いやりのある子を育てる	1 規範意識の高揚	学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。(かまきりを守る児童100%)	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・交通ルール・学校のきまりを守る 児童92.9%、保護者92.9% ◇校内における廊下歩行や無言の場、校外における横断歩道の渡り方等についての指導をさらに充実させる必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるように習慣化(名札の着用、時間を守る等)をさらに図っていく必要がある。	3.0	3.7	○木脇小は、交通事故が少ない。 ○あいさつも自分から進んで大きな声するようになった。非常によいことである。 ○登下校の児童の明るいあいさつが素晴らしい。活気ある明るい声がよい。 ○青少年育成町民会議のあいさつ運動で、朝立ち番をしたが、みんなが大きな声であいさつをしていた。 ○愛の一声運動に参加した際、皆笑顔で元気よく登校していた。あいさつを交わし、楽しい時間となった。子供達の成長を心から応援したい。 ○あいさつは、なかなかいいと思う。あいさつ運動がよい。 ○思いやりについて積極的に問題解決しようとする職員を評価したいと思う。 ○人の事を思いやるすてきな大人の姿を見る機会が多くある国富町の子供達は、思いやりのある子供に育っていると思う。 ○思いやりがあるという。	
	2 あいさつ・会釈の啓発	気持ちのよいあいさつや会釈をすることができる児童が80%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・大きな声で気持ちのよいあいさつ、会釈 児童86%、保護者69% ◇計画していた「あいさつ運動」は実施できなかった。計画委員会を中心とした各学級の輪番による「あいさつ運動」を実施し、児童が主体的にあいさつに取り組めるようにしたい。児童のあいさつに対する意識を高め、地域でのあいさつにも広げたい。				
	3 思いやり(感謝や貢献の心)	思いやりのある言動ができると答えた児童(保護者)の割合が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・友達への優しさ、思いやりのある行動 児童90%、保護者88% ◇困っている友達に声をかけたり手伝ったりする行動が見られるが、言葉遣いや名前呼び方については課題が残る。その場での指導を確実に行うとともに、道徳教育並びに人権教育の充実とともにさらに努めていく。				
たくましい子を育てる	1 体力や運動能力の向上	休み時間・体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・楽しく運動したり、外で遊んだりしている 児童82.6%、保護者81.2% ◇個人の嗜好の偏りにより過ごし方が固定化している傾向もみられる。昼休みには外遊びに意識が向きやすいように啓発を行う。	3.0	3.4	○今年度は、群れて遊ぶ事も難しい年だったので、体力が落ちてしまっても仕方ないと思う。 ○運動能力は、ここ数年落ちてきていると感じている。外で遊ぶことも少なくなり、難しい問題だと思う。 ○運動会で、児童が伸び伸びと競技をし、きびきびと運営もしていることに感心した。 ○人間体力が基本です。大いに進めてほしい。 ○職員に感謝したい。 ○食事のマナーに関しては、保護者も頑張ってもらいたい。	
	2 健康的な生活習慣の確立(新型コロナウイルス感染症予防)	手洗い、うがい、消毒等の感染症予防や立腰に努める児童が70%を超える。 ◇ティファコトロールを含む基本的な生活習慣の確立に努める児童が70%を超える	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・手洗い、うがい、食後の歯みがき 児童90.7%、保護者90.1% ◇手洗い、うがい、マスク着用については、児童は習慣化している。長引くコロナ禍によって保護者の意識も高まってきているのではないかと考える。今後も継続していく。				
	3 食のマナーの徹底	食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	○児童・保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・食事のマナーを守っている 児童87.5%、保護者68.1% ◇「食事のマナー」については、児童と保護者、教師の間で評価のずれが大きい。家庭と連携しながら取り組む必要があるが、基本的な生活習慣が身に付いていない児童もいるため、引き続きばくばくデーで啓発をしていく。				
開かれた学校をつくる	1 家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	まちコミメール登録数を95%以上にし、常に情報発信を行い、共有できる体制作りをする。 通信やホームページの更新などを月1回以上定期的に行い、情報発信に努める。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校文書、通信、ホームページ等で、学校の取組や児童の様子がよく分かる…88.4% ○学校通信は定期的に、学年・学級通信は随時発行している。まちコミメールについても効果的に活用できている。ホームページは更新が進むときとそうでないときがある。更新方法の工夫により、情報提供に努めたい。	2.9	3.5	○メールが早くてよい。 ○コロナ禍にもかかわらず、頑張ってもらっていると思う。 ○地域との交流は非常に大事である。 ○地域の指導者と児童の取組がよい。 ○学校運営について、各々の知恵を出し合い、いかに児童が充実した日々を送れるか、協議し合う事は素晴らしいと思う。第一歩であるが、成果が表れていると感じる。 ○自分もボランティアとして学校行事に参加している。自分たちの活動を児童にも聞いてほしい。 ○フェスタができてよかった。	
	2 コミュニティースクールとしての取組を核とした各種連携・協働の推進	学校運営協議会を中心として、地域と学校が目標を共有し、協働による活動を推進する。 コミュニティースクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域人材の積極的な活用を図る。 キャリア教育に関心をもち、自分の将来について考えさせる。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は地域や保護者の方々と一体となって教育を進めている…82.7% ◇例年、国富音頭(1年)、いも苗植え・収穫(3年)、米づくり(5年)、きわきっ子フェスタ等で地域の皆様へ御支援いただき、活動を進めている。本年度は新型コロナの影響で変更や中止があったが、なんとか実施することができた。地域の方々をもっと活用して、活動の工夫についてさらに検討していきたい。				
	3 関係機関との連携	連携型小中一貫教育を推進する。 幼保小中連携や青少年育成協議会、社会福祉協議会等との連携、協働を行う。 町福祉保健委員、民生委員・児童役員、スクールソーシャルワーカー等との連携を行う。	○保護者アンケート結果で、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学級懇談やPTA行事に進んで参加している…70.9% ○本年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参観日は6月、9月、10月、11月の4回、懇談会は2回の実施となった。PTA総会等は開催できなかった。次年度、状況に応じて、保護者の皆様へ家庭教育に関する情報提供の努力をした。小中連携については、学校運営協議会を通じて小学校職員と中学校職員、地域の方が情報共有や意見交換を活発に行うことができたので、今後も継続させていきたい。				
特別支援教育	1 教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	学期に1回のアンケートで「学校が楽しい、どちらかと言えば楽しい」と答える児童が80%を超える。	○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・児童の理解や児童の理解を深める指導や支援を行ったりしていますか…80.8% ○結果を通信せずに、今後も継続した支援体制を作っていた。	3.0	3.4	○今の学校は、昔と違って非常に難しいと思われる。今の教育を行えば、前途洋々と思われる。 ○職員の仕事と児童に対する思いやりがこれからも続くよう願っている。 参観日に、児童が「先生のことが好き」と言っていた。 ○児童と職員との温かい交流が素晴らしい。 ○一人一人の子供に対応し、まずは、児童が「学校が楽しい」思うよう、「児童・子供理解」を優先してほしい。	
	2 校内の支援体制や環境の充実	学期に1回のアンケートで「学習のことで困っていることがありますか」でいいと答える児童が20%を下回る。	○保護者アンケート結果で3または4を選んだ肯定的な評価の合計 ・学校は、教師間で連携をとって指導にあたり、支援ができる体制を作ったりしていますか…75.9% ◇全体的にはいいが、不登校などの対応については、職員の共通理解の場を設定するタイミングが難しい。にこにこ委員会(いじめ・不登校対策委員会)と担任との連携をさらに深める工夫をしていきたい。				